



2022年 露地・雨よけぶどう 病害虫防除暦

JA中野市営農センター
JA中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ/10a)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
	4月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	特別散布 展着剤 20 mℓ ラビキラー乳剤 500 mℓ	発芽前 (休眠期)	2回	300	ブドウウカミキリ (ブドウカバ)	・ブドウウカミキリ多発園地は散布する。 ・発芽後の散布は薬害が発生するので散布時期を厳守する。 ・訪花昆虫保護のため早朝散布を徹底する。
	4月中下旬 (発芽直前)	① アビオン-E (展着剤) 100 mℓ パスポート顆粒水和剤 400 g	休眠期	1回	手散布 300	晩腐病 黒とう病	晩腐病対策のため、たつぷりと丁寧に散布する。
	5月初頭 特別防除 かがらみ対策	樹幹塗布(水:アルパリン=1:1) 水【20mℓあたり】 アルパリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで ただし収穫30日前	塗布 1回	1樹あたり 20-40 mℓ	コナカイラムシ類 クビアカシバ	主幹分岐部下を30cm以上粗皮を削り塗布する。 薬液目安: 直径20cm以上の樹は40mℓ塗布 【クビアカシバ多発園 対策】 6月初頭に塗布を実施する。(塗布による防除は年間1回)
	展葉3・4枚	特別散布 展着剤 10 mℓ キノンドー顆粒水和剤 100 g	45日前	4回	300	べと病 黒とう病	連続した降雨が予想される場合は散布する。 ※散布時は施設や住宅への飛散に注意
	5月中旬 展葉6枚頃	② 展着剤 10 mℓ トランスフォーム7077アル 50 mℓ オーソサイド水和剤80 125 g	14日前 30日前	3回 3回	300	晩腐病・べと病 灰色かび病 黒とう病 かがらみ類	かがらみ類対策のため、主幹や主枝にもたつぷり散布する。
	5月下旬 展葉9枚頃	③ 展着剤 10 mℓ ドーシャスフロアブル 50 mℓ	60日前	3回	300	晩腐病 べと病 黒とう病	【カスミカメ類・かがらみ類 対策】 コルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用する。
	5月下旬 満開予定日 14日前	種なしぶどう必須散布 ④ 展着剤 10 mℓ ストマイ液剤20 100 mℓ	満開予定日の 14日前～ 開花始期	1回	300	《無種子化》	・有核巨峰には絶対に飛散しないようにする。 ・散布遅れがないように注意する。
	6月上旬 展葉11枚頃	展着剤 10 mℓ フラスター液剤 ※倍率は注意事項欄に記載	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	1回	150	《着粒増加》 《新梢伸長抑制》	【品種ごとの登録倍率】※詳細はラベルをご確認ください 巨峰:500～800倍(散布量300ℓの場合は1,000倍登録) カガハール・ピオネ:500～800倍
	6月上旬 開花3日前	⑤ 展着剤 10 mℓ パレード15フロアブル 50 mℓ オーソサイド水和剤80 125 g トクチオン水和剤 125 g	7日前 30日前 45日前	2回 3回 3回	400	晩腐病 べと病	・主幹害虫対策のため、主幹・主枝にもたつぷり散布する。 ・アザミウマ類対策のため、花穂(ぶどうの軸)にしっかりと薬液が達するようにたつぷりと散布する。 ・マンゼブ成分を含む農薬は使用回数に注意(年2回まで) (ジマンダイセン・ゾーバクエニール・ペンコセブ・リトミルなど)
	前回から 10日以内 (落花直後)	⑥ コテツフロアブル 50 mℓ スイッチ顆粒水和剤 33 g ジマンダイセン水和剤 100 g	60日前 30日前 45日前	2回 2回 2回	400	灰色かび病 褐斑病 黒とう病	【梅雨の長雨・豪雨 対策】 展着剤としてアビオン-E2,000倍を使用してもよい。 ただし、落花12日以降から袋かけ前まで(⑦・⑧・特別散布)に加用すると、ブルム溶解の恐れがあるため注意する。
	前回から 10日以内 (落花12日)	⑦ フェニックスフロアブル 25 mℓ アドマイヤー顆粒水和剤 10 g ゾーバクエニール顆粒水和剤 133 g	14日前 21日前 45日前	2回 2回 2回	400	チャノキアザミウマ (アザミウマ類) フタテンヒメコバエ (クビアカシバ)	【農家在庫 整理】 農家在庫がある場合、トクチオンⓄをスプラサイド水和剤1,500倍(14日前、2回)に代えてもよい。
	前回から 10日以内 (落花20日)	⑧ ザンプロDMフロアブル 50 mℓ アミスター10フロアブル 100 mℓ ディアナWDG 10 g	30日前 30日前 前日	2回 3回 2回	400		【農薬汚れ 対策】 ザンプロDMⓄに代えてレーバスフロアブル2,000倍(7日前、3回)を散布する。
	前回から 10日以内 (落花30日)	特別散布(袋かけ未実施園) ライメイフロアブル 25 mℓ オンリーワンフロアブル 50 mℓ アーデントフロアブル 50 mℓ	14日前 前日 前日	3回 3回 4回	400	晩腐病・べと病 褐斑病・黒とう病 灰色かび病 アザミウマ類・ハダニ類	・袋かけが間に合わない園地は散布する。
	7月中旬 (袋掛直後)	⑨ アビオン-E(展着剤) 50 mℓ ムッシュボルドーDF 200 g アルパリン顆粒水溶剤 50 g	— 前日	— 3回	400	べと病・さび病 チャノキアザミウマ ブドウウカミキリ カメムシ類 コナカイラムシ類	【ハダニ類 対策】 コロマイト水和剤2,000倍(7日前、2回)を加用する。 【クビアカシバ 対策】 パダンスG水溶剤1,500倍(21日前、5回)を加用する。 【展着剤 代替・農家在庫 整理】 アビオン-Eに代えてK・Kステッカー3,000倍を使用してもよい。K・Kステッカーを使用する場合は最後に調合する。
	7月下旬 (前回から 10日以内)	⑩ ICボルドー66D 2.5 kg テルスター水和剤 100 g	— 14日前	— 1回	400	べと病 さび病 晩腐病 チャノキアザミウマ	ボルドー散布時は隣接園や施設・住宅に飛散しないように注意。 【長雨・ゲリラ豪雨 対策】 展着剤としてアビオン-E2,000倍を加用してもよい。
	8月上旬 (前回から 10日以内)	⑪ ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400		【ボルドー剤 代替】 ICボルドー66Dに代えてムッシュボルドーDF 500倍、 コサイド3000 2,000倍、4-4式ボルドーを散布してもよい。 ただしムッシュボルドーやサイトは高温時や降雨後の散布により薬害発生 の恐れがあるため心配な場合はクレフノン100倍を加用する。
	8月中旬 (前回から 10日以内)	⑫ ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	べと病 さび病 晩腐病	【コガネムシ類 対策】 イカズチWDG 1,500倍(21日前、5回)を加用する。(直前混用) ただし、カガハールなど早生品種との混植園では散布時期に注意
	8月下旬 (前回から 10日以内)	⑬ ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400		
	収穫終了後	晩腐病・べと病 多発園 展着剤 10 mℓ ICボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	① 病原菌は落葉内で越冬するので、集めて土中に埋める等の処理をする。 ② 根頭がんしゅ病の発生防止のため、ワラ巻きによる防寒を実施する。 ③ 晩腐病の耕種防除として、二番成り・巻きひげ・果梗痕をきれいに 取り除き、中耕を実施する。あわせて園内を整備し栽培環境を整える。	

安全・安心な農産物生産のために防除・使用規準を厳守しましょう。 * 農薬散布の際は、隣接園・他作物へ飛散しないようにする。

当防除暦の複製・コピーを禁止します